

故障かなと思ったら		
症状	原因	対策
ショックが弱い	漏電している	・電気さく線の点検を行ってください。 p.21の電気さく不良箇所(例)を参照してください。
	マイナス不良	・マイナス線が切れていないか点検してください。 ・地面が乾燥した場所にマイナス棒を打ち込んでいないか確認してください。 ・マイナス棒がサビていないか確認をし、サビがひどい場合は交換してください。(別売)
動かない	故障	・本体の故障。当社又は販売店へ御連絡ください。
	電池切れ (クイック600)	・ゲッターアルカリ電池か内蔵の単1アルカリ電池を交換してください。
	充電不足 (クイック600ソーラー)	・ソーラー面の日当たり、バッテリーの電圧を確認してください。
	スイッチの入れ忘れ	・確認してください。
	設置場所	・夜間でも周囲が明るい場所では作動しません。確認してください。

獣害用電気さくゲッターシステム

クイック600 型式 Qik-600

クイック600ソーラー 型式 Qik-600S

最大電線長
600m

取扱説明書



はじめに	1
使用上の注意	2
箱を開けたらまず…	3
本器について	4
本器の設置	7
その他本器について	10
電気さくの設置	12
電気さくについて	21

この度は、末松電子製作所製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。

本器は、衝撃電流により野生の害獣類(イノシシなど)の侵入を効果的に防ぎます。

お願い

- ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。

KSDS 株式会社 末松電子製作所

〒869-4615 熊本県八代市川田町東34-1
TEL(0965)53-6161(代) FAX(0965)53-6162

フリーダイヤル(通話料無料)

0120-53-6163

- ホームページアドレス <http://www.getter.co.jp/>
- Eメールアドレス info@getter.co.jp

KSDS 株式会社 末松電子製作所

もくじ

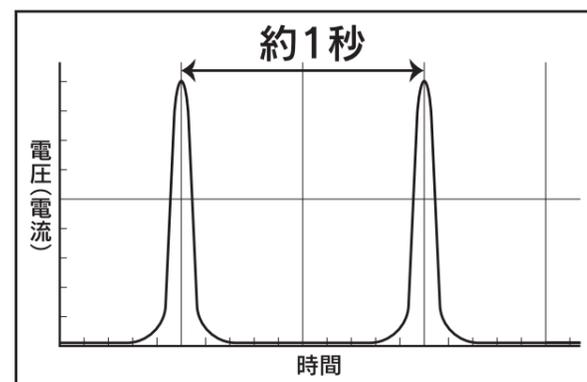
はじめに	1
使用上の注意	2
箱を開けたらまず…	3
付属品をお確かめ下さい。	
本器について	4
●各部の名称と働き	4
●クイック600の電源について	5
●クイック600ソーラーのソーラーパネルの取付け方	5
本器の設置	7
1. 杭を打込み本器を取付ける	7
2. マイナス棒の設置	7
3. 出力コードの接続	9
4. 出力の確認	9
その他本器について	10
●本器の収納方法	10
●クイック600のアルカリ電池交換方法	11
●外部電源(バッテリー)の取付け方	11

電気さくの設置	12
●設置概要図	12
●取付に必要な道具	12
●電気さくの設置手順	13
①コース決め	13
●地形による電気さくの張り方	14
●対象動物別の張り方と資材	15
②下刈り	18
③支柱の立て込み	18
④フックの取付け	18
⑤電気さく線の取付け	18
●フック以外の取付け方	19
⑥出入り口の作成(ゲートの取付け)	19
⑦上下結線をする	20
⑧本器の設置	7
⑨出力の確認	20

電気さくについて	21
●電流が弱いと思われる場合	21
●電気さくを使わない時期の管理	22
日本電気さく協議会からのお願い	23
電気さくをご使用のお客様へ	25
故障かなと思ったら	27

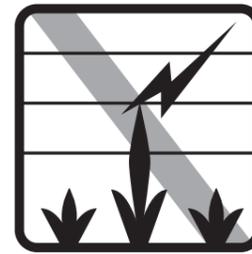
はじめに

電気さくは安全な防獣システムです。約1秒間隔で瞬間的に電気を流すパルス出力なので人が触れても静電気のようなショックを受けますが、出力の間隔があいているので手を離すことができ安全です。



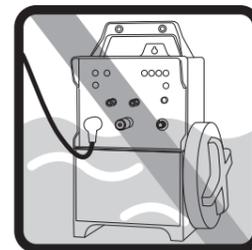
 **電源(コンセント)から直接つなぐととても危険です。感電や火災など重大事故の危険性がありますので、必ず『電気さく用電源装置』を使用して下さい。**

使用上の注意



●漏電に注意

電気さくは草等が電気さく線に触れると、漏電の原因となりますので出来るだけ草等が触れない様管理してください。



●水没に注意

電気さく本器は防雨型ですが、水中に浸してはいけません。直置きは避けてください。湿気などにより故障の原因となります。



●感電に注意

人がさく線に触れますと感電します。特に子供さんやお年寄りの方が電気さく線に触れない様ご注意ください。



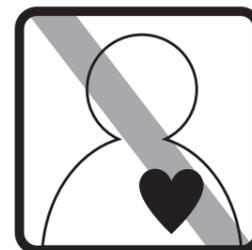
●注意表示板を必ず取付ける

電気さくを使用していることを近所や地域の人によく知らせ、本体に付属している注意表示板を圃場の目立つ所に取付けてください。



●発火や引火に注意

ガソリン・灯油・軽油・重油・混合油などの油類、または発火や引火しやすい物があるところでは、電気さくは使用しないでください。

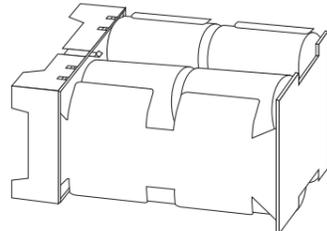


●使用禁止

ペースメーカーや医療器機などが誤作動する場合がありますので、そのような場合は使用を中止してください。

付属品をお確かめ下さい。

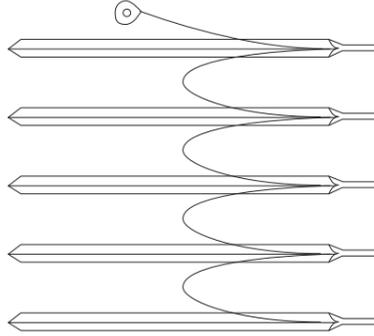
クイック600



ゲッターアルカリ電池12V

【稼働日数の目安】

- 出力間隔約1.1秒
- 出力間隔約0.76秒
- ・連続(24時間) / 45日
- ・連続(24時間) / 34日
- ・夜出力 / 90日
- ・夜出力 / 68日



マイナス棒30型



注意表示板



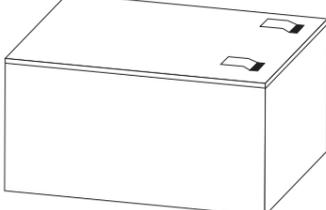
バッテリーコード



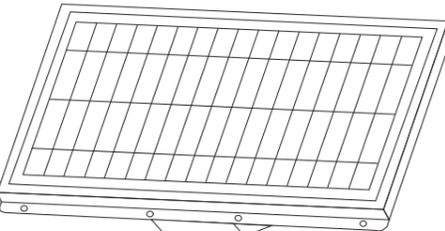
本器取付ネジ(2本)

●取扱説明書 ●保証書

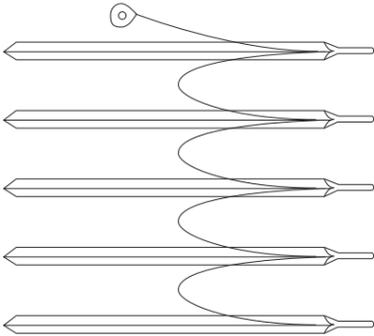
クイック600ソーラー



ミニゲッターパックS



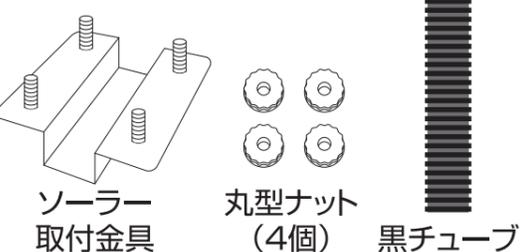
ソーラーパネル



マイナス棒30型



注意表示板



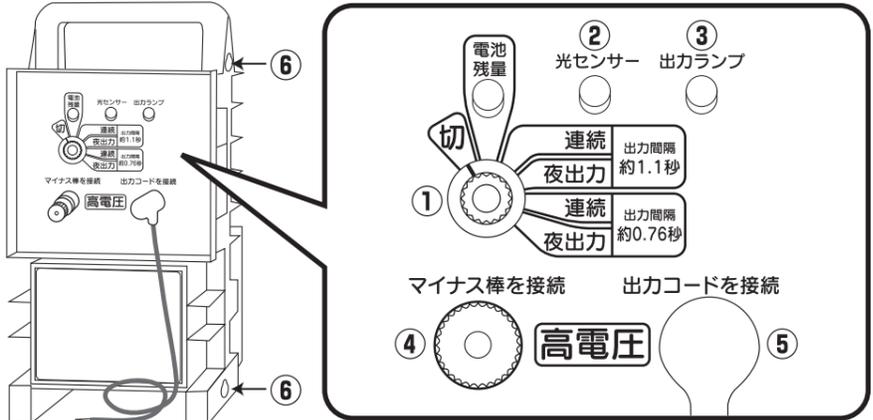
ソーラー取付金具
丸型ナット(4個)
黒チューブ



本器取付ネジ(2本)

●取扱説明書 ●保証書

各部の名称と働き



①操作スイッチ
ロータリースイッチの白線を設定したい位置に合わせてください。
【切】…作動停止
【電池残量】…ランプの点滅で電圧の状況が確認できます。

- クイック600の場合
 - 【点灯】電圧は十分。
 - 【点滅】電池を準備。
 - 【消灯】電池を交換。
- クイック600ソーラーの場合
 - 【点灯】電圧は十分。
 - 【点滅】太陽光または専用充電器にて充電。
 - 【消灯】充電しても点かない場合は交換。

【連続】…24時間作動
【夜出力】…夜のみ作動(光センサーで明るさを感知)
【出力間隔約 1.1秒】…イノシシ・シカ 等
【出力間隔約0.76秒】…サル・小動物 等

②光センサー
辺りの明るさを感知するセンサーです。

③出力ランプ
本器が動作している時に点滅します。

④高電圧マイナス側端子
マイナス棒を接続してください。

⑤高電圧プラス側端子
出力コードが接続してあります。

⑥取付用穴
支柱へ取付ける際にネジなどにかける穴です。

性能表

	クイック600	クイック600ソーラー
寸法(本器)	たて286×よこ140×奥行220mm	ソーラーパネルを正面・背面に取付けた場合 たて435×よこ330×奥行220mm ソーラーパネルを側面に取付けた場合 たて435×よこ165×奥行330mm
重量	約2.7kg	約5.0kg
出力電圧	約8,200V	
出力間隔	約1.1秒 / 約0.76秒	
電源	DC12V	
最大電線長	600m	

※仕様等は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

クイック600の電源について

クイック600には、ゲッターアルカリ電池12Vが内蔵されていますので、そのままご使用いただけます。
(電池の交換方法は、p.11を参照ください。)

クイック600ソーラーのソーラーパネルの取付け方

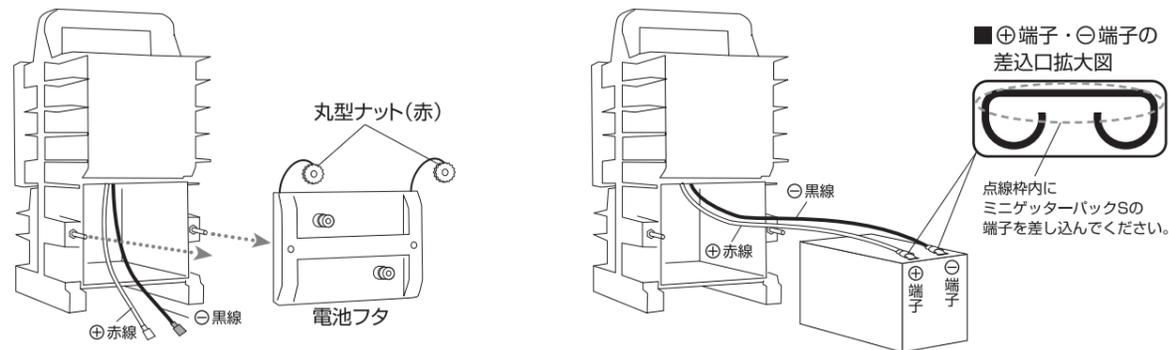
ソーラーパネルの取付け方向が変えられます。

太陽の位置に合わせてソーラーパネルの取付け方向が変えられるので、操作パネル面を操作しやすい方向への設置が可能です。

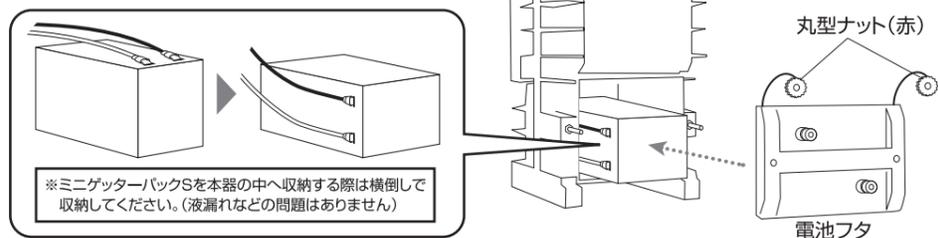


1 ミニゲッターパックSを本器に取付けて収納する

- ① 丸型ナット(赤)をゆるめて、電池フタを取り外す。
- ② 本器より出ている⊕赤線をミニゲッターパックSの⊕端子へ接続。⊖黒線を⊖端子へ接続。

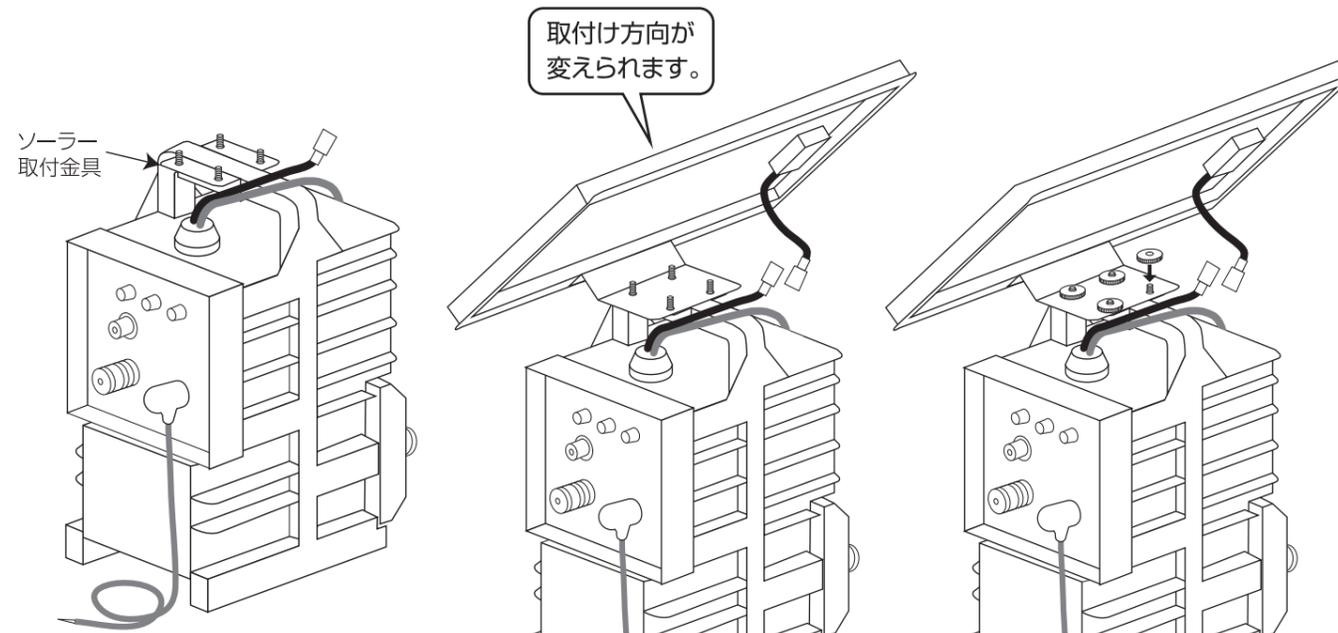


- ③ 本器の中へミニゲッターパックSを収納し、電池フタを丸型ナット(赤)でしっかりと締め付け、取付けてください。

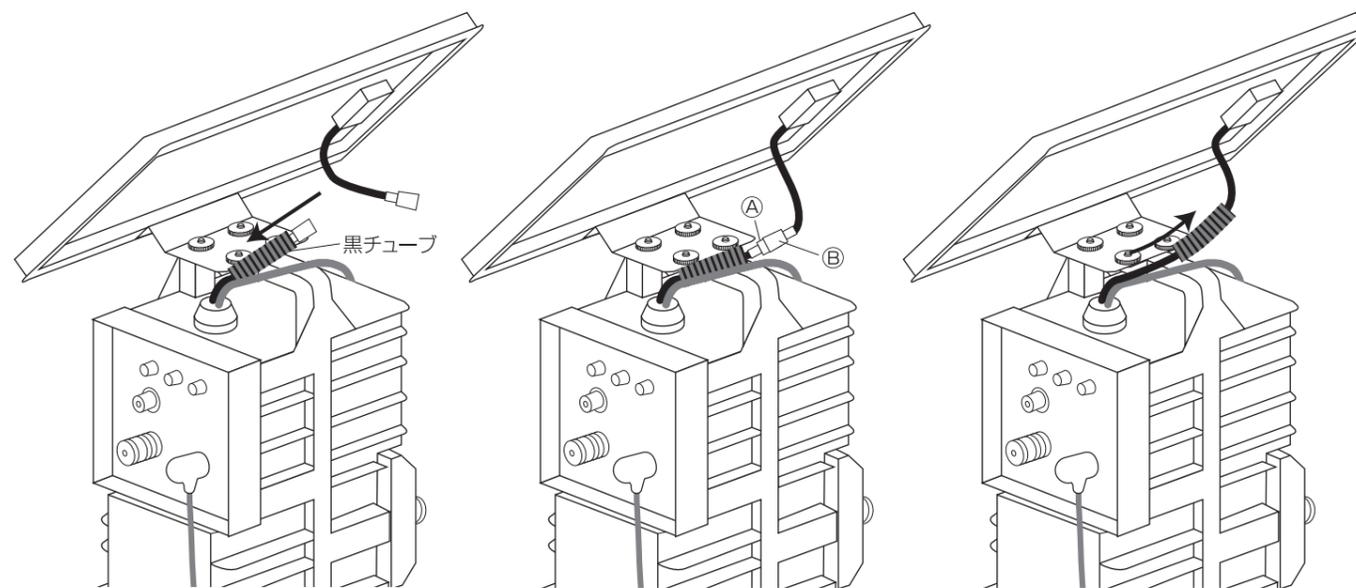


2 ソーラーパネルを本器に取付ける

- ご注意
- 本器設置の際にソーラーパネルが南向きの日当たりの良い方向になるように取付けてください。
 - ソーラーパネルは堅い物がぶつかると破損することがありますので取扱いにご注意ください。



- ① 本器の持ち手に凹型のソーラー取付金具を持ち手の下からはめ込む。
- ② ソーラー取付金具のボルト部分をソーラーパネルの金具の穴に通して重ねる。
- ③ 上から丸型ナットで締め付けて固定する。

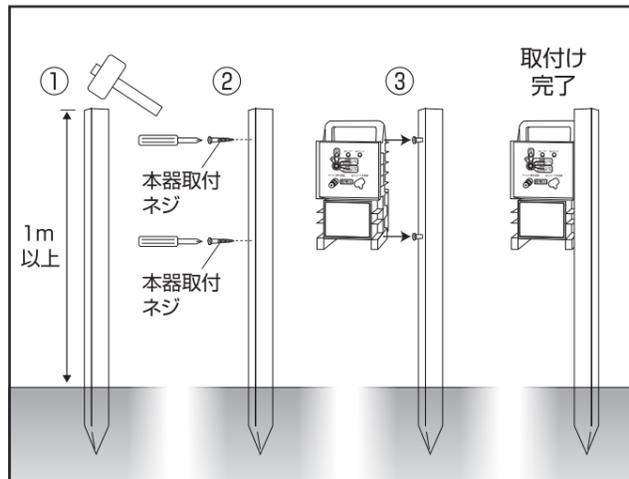


- ④ 黒チューブを本器側のコネクタケーブルに通す。
- ⑤ Ⓐ本器コネクタとⒷソーラーパネルコネクタを接続する。
- ⑥ 黒チューブを接続したコネクタの上にはずらす。

1. 杭を打込み本器を取付ける

本器の設置

- ①長さ1.5m、一辺6cm以上の角材を地上1m以上になるように木づちなどで打込む。
- ②雨などで水が溜まっても浸からない位置へ付属のネジを取付ける。
- ③②で取付けた本器取付ネジに、本器右側面上部と下部の取付用丸穴にかけて取付ける。



●別売りの取付け支柱セットを使うとしっかり取付けることができます。

2. マイナス棒の設置

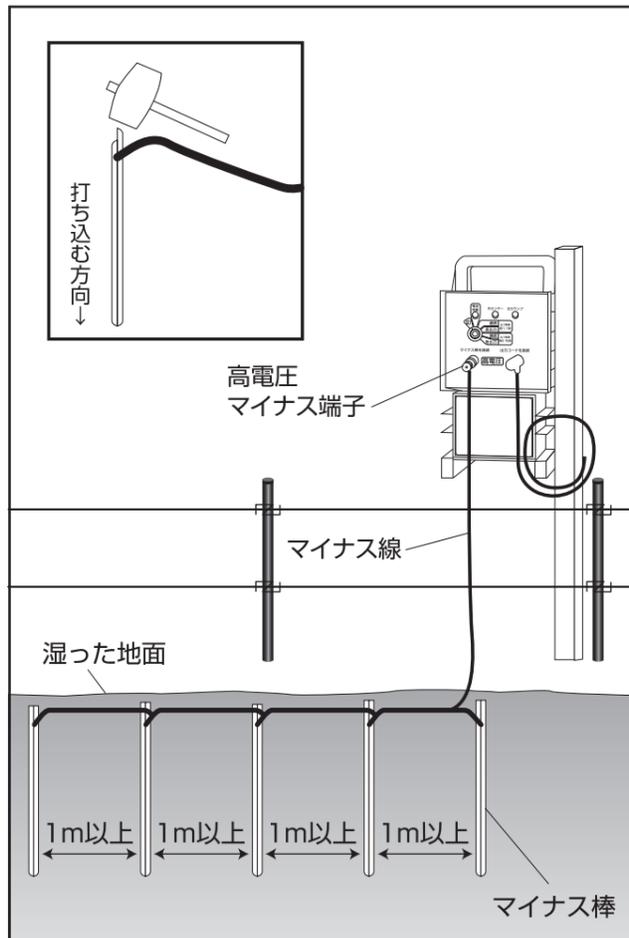
本器の設置

① マイナス棒を打込む

湿った地面に5本のマイナス棒を1m以上の間隔をあけて打込み、右図のように地中に埋まるまで打ち込みます。マイナス棒の間を接続している線も地中に埋めてしまいます。

これでマイナス棒の設置は完了です。

※p.8の注意事項を参照の上、マイナス棒の打ち込む向きを間違えない様に気をつけてください。



② マイナス線を本器に接続

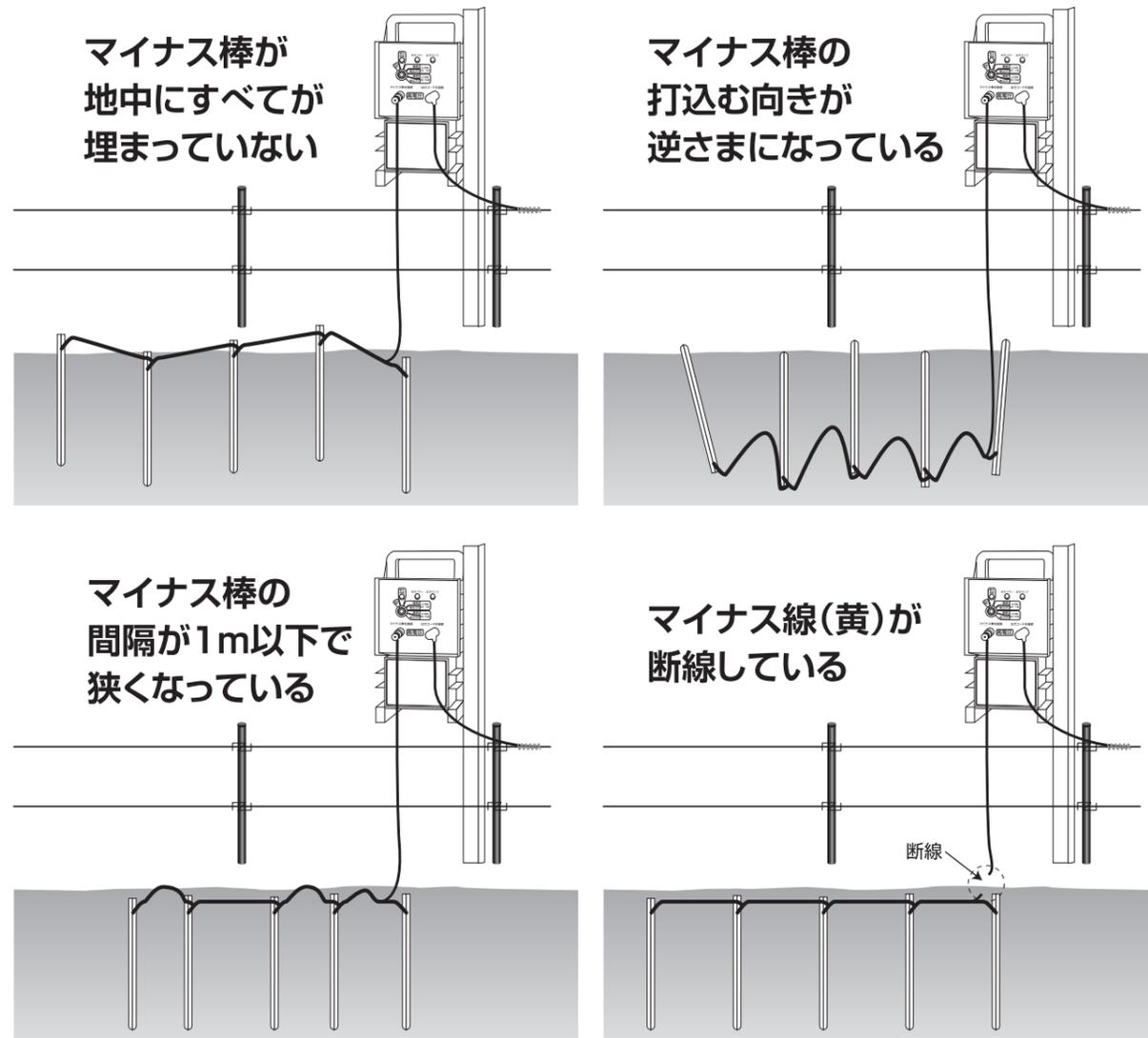
本器の前面パネル高電圧マイナス端子のネジをゆるめて、マイナス線のリング端子を取付けてしっかりしめて固定します。

(効果の決めてはマイナスです。必ず取付けて下さい。)

注意

正しくマイナスされていないと効果がありません。マイナスはとても大切です。

マイナスをしないと、電気さくとしての効果は全くありません。電気は動物から地中を流れて本器にもどり動物にショックを与えます。以下のように正しく設置されていないと効果を発揮しませんので設置の際や設置後もご注意ください。

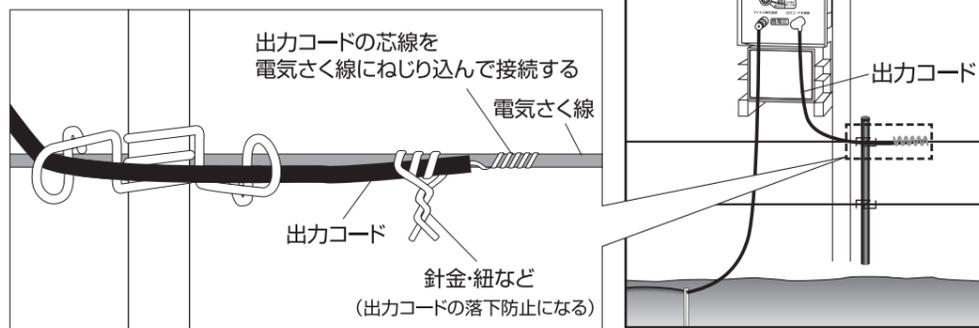
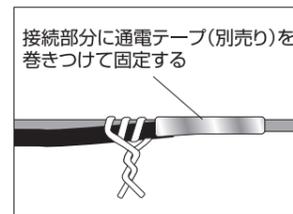


3. 出力コードの接続

本器の設置

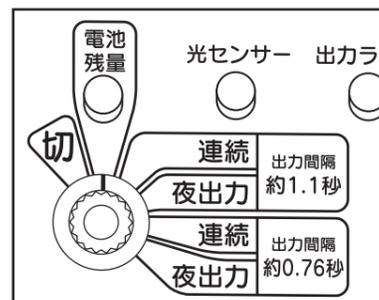
本器の高電圧に接続されている出力コードの先端を、電気さく線にしっかり接続します。接続する電気さく線は、上段でも下段でもかまいません。

●別売りの通電テープを使うと接続部分をしっかりと固定できます。



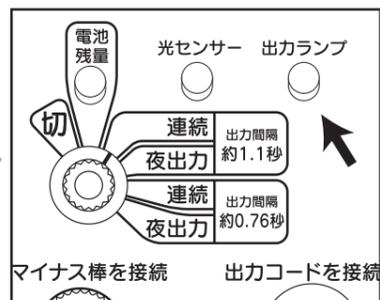
4. 出力の確認

本器の設置



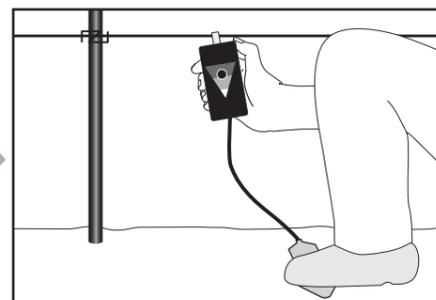
スイッチを電池残量に合わせる

ランプが点灯すれば正常です。点滅・消灯する場合は、下記を参照ください。



出力ランプの点滅を確認する

スイッチを「連続」に合わせる。出力ランプが点滅すれば本器が高電圧を出力しています。



検電器(テスター)で電気さく線の電圧を確認する

正常に電気さく線へ衝撃電流が流れているか検電器(テスター)にて確認をする。

詳しくはp.20を参照ください。
※検電器(テスター)は別売です。

定期的にスイッチを電池残量に合わせて電池の残量を確認してください。

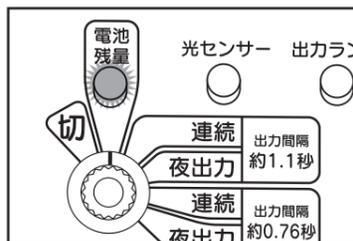
ランプの点滅で電池電圧の状況が確認できます。

■クイック600の場合

- 【点灯】電圧は十分。
- 【点滅】電池を準備。
- 【消灯】電池を交換。

■クイック600ソーラーの場合

- 【点灯】電圧は十分。
- 【点滅】太陽光または専用充電器にて充電。
- 【消灯】充電しても点かない場合は交換。



本器の収納方法

●クイック600の場合

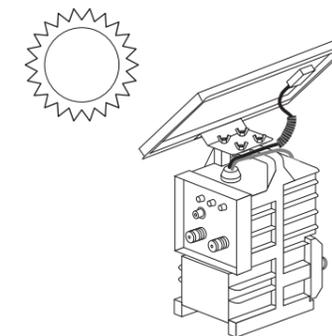
長期間使用しない場合はアルカリ乾電池を取り外してください。(液漏れの原因となります。)

●クイック600ソーラーの場合

ミニゲッターパックSを本器と繋いだ状態で長期間保管しますと、ミニゲッターパックSの電圧が待機電流・自然放電等で下がり過ぎ使用できなくなる場合があります。

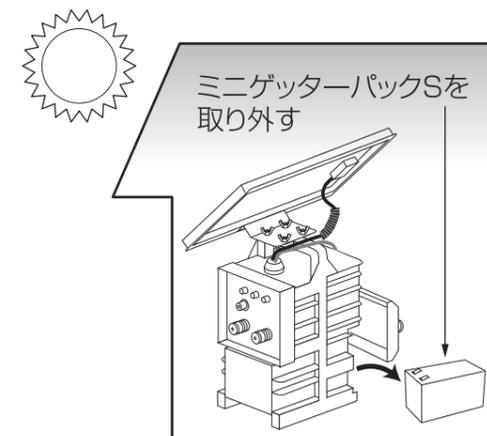
本器を日が当たる場所に収納する場合

本器の電源スイッチを「切」にして、ミニゲッターパックSを本器に取付けたまま日光がパネルに当たる場所で保管してください。
(本器には、過充電防止回路が内蔵されておりますので過充電にはなりません。)



本器を日が当たらない場所に収納する場合

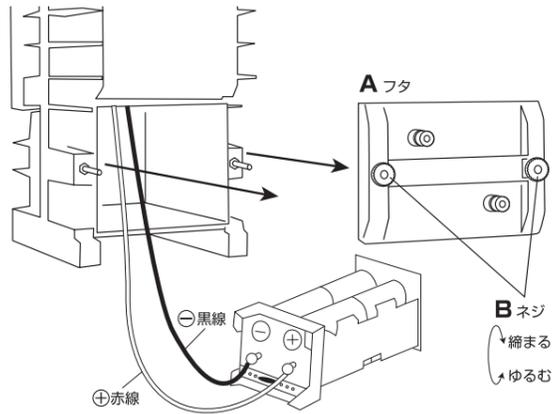
必ずミニゲッターパックSに繋がっている本器からの配線を取り外し、保管されてください。
6ヶ月以上保管されている場合は2ヶ月毎に本器とミニゲッターパックSを接続し、本器の電源スイッチを「切」の位置で2日以上(晴天時にソーラーパネルに日光が当たっている状態で合計15時間以上)日光を当てて充電してください。



その他本器について

クイック600 / クイック600ソーラー

クイック600のアルカリ電池交換方法

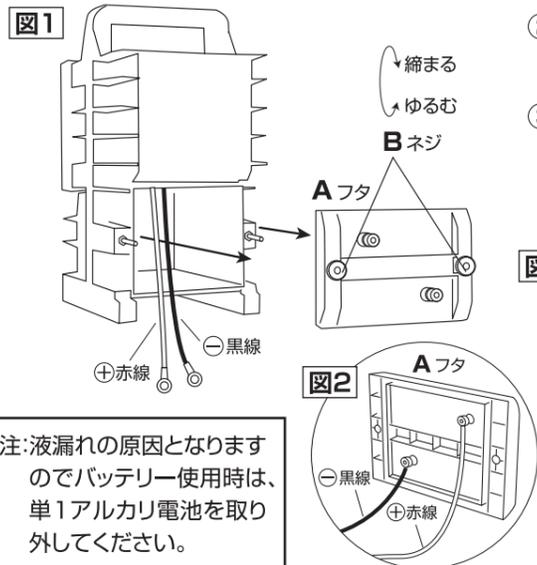


- ①図のように、**Bネジ**をゆるめて**Aフタ**を取り外します。
- ②内蔵の電池ケースを取り出します。
- ③電池ケースから単一アルカリ電池全部(8個)を取り出し、新しい単一アルカリ電池8個を取付けます。
- ④本器の中に電池ケースを収納して、**Aフタ**を取付けて**Bネジ**を締めてください。

※新しい電池と使用した電池や異種電池の混用はしないでください。

外部電源(バッテリー)の取付け方

●クイック600の場合



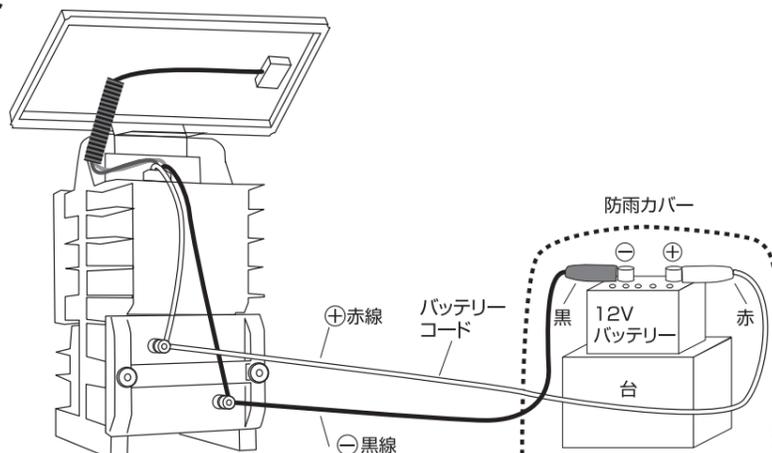
- ①図1のように、**Bネジ**をゆるめて**Aフタ**を取り外します。
- ②図2のように、内蔵のコードを**Aフタ**の内側の端子に \oplus \ominus を確認して接続し、**Aフタ**を取付けて**Bネジ**で締めてください。
- ③図3のように、バッテリーコードを使って本器側の端子 \oplus \ominus を先に接続し、最後にバッテリー側の端子 \oplus \ominus に接続します。バッテリーは防雨のためにカバー等でおおいます。

注:液漏れの原因となりますのでバッテリー使用時は、単1アルカリ電池を取り外してください。

●クイック600ソーラーの場合

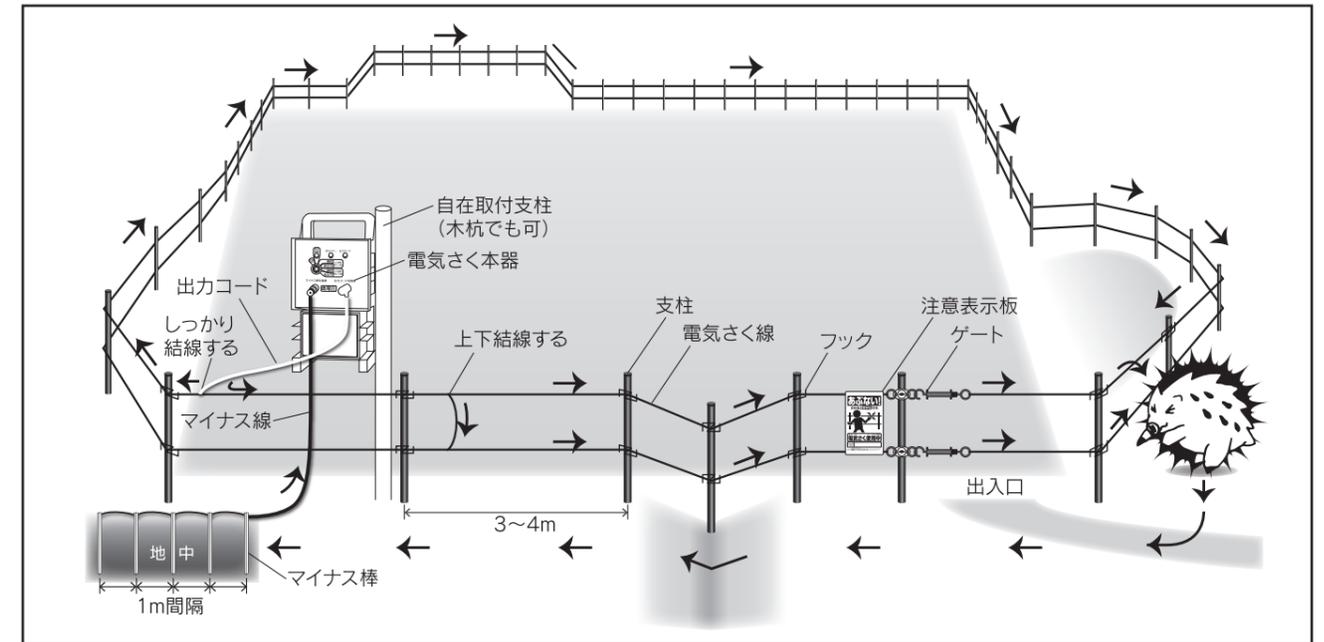
図のように、バッテリーコードを使って本器側の端子 \oplus \ominus を先に接続し、最後にバッテリー側の端子 \oplus \ominus に接続します。バッテリーは防雨のためにカバー等でおおいます。

注:バッテリー使用時は、ミニゲッターパックSを取り外してください。



電気さくの設定

設置概要図



田畑の周囲に電気さく線(電気を流す裸線)を張りめぐらし、この電気さく線に衝撃電流を流します。出力コードより出た衝撃電流は電気さく線を通り動物の体内を流れ、足から地面に流れ、本器の高電圧マイナス端子へ戻ってきます。このようにして動物の体内に電気を流し、ショックを与えます。電気ショックです。これはありません。

取付けに必要な道具

以下の道具をご用意してください。

 支柱打込み用に	 アース棒の打込み用に	 電気さく線の切断などに	 支柱間隔 ガイシ取付高さ決め用に
 本器取付用に	 本器取付用に	 	 手の保護用に

電気さくの設置

電気さくの設置手順

- ① コース決め
 - 電気さくを設置するコースを決める
 - 本器取付け位置を決める
 - 出入口の位置を決める
- ② 下刈り
 - コース上の雑草を刈る(近くに障害物があれば取り除く)
- ③ 支柱の立て込み
 - 地面の凸凹に合わせて電気さく線が同じ高さになるように打ち込む
- ④ フックの取付け
 - 電気さく線が対象動物に合わせた間隔になるように取り付ける
- ⑤ 電気さく線の取付け
 - ゆるまないように、上の段から順に張る
- ⑥ 出入口の取付け
 - 出入りする場所にゲートを取付ける
- ⑦ 上下結線をする
 - 約100m毎に上下結線する
- ⑧ 本器の設置
 - p.7~p.9の本器の設置を参照ください。
- ⑨ 出力の確認
 - スイッチを入れて、検電器(テスター)で電気さく線の出力を確認する

以下は「イノシシ2段張」で説明をしています。

p.14「地形による張り方」・p.15「イノシシの場合(2段張)」を参考に取付けてください。

① コース決め

電気さくの設置

① 電気さくを設置するコースを決める

電気さくは、設置する場所の地形に合わせた設置が必要になります。右ページの「地形による張り方」を参考に設置場所を決定してください。

※アスファルトやコンクリートには設置出来ませんのでご注意ください。

② 本器を設置する場所を決める

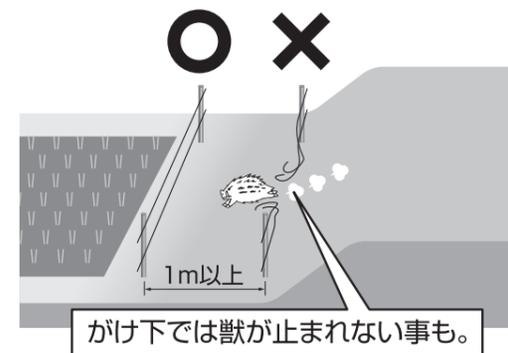
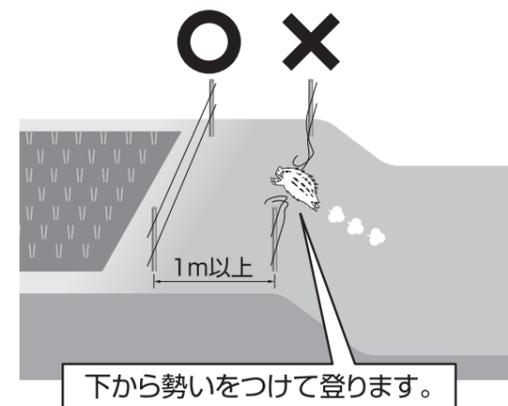
操作がしやすくしっかりマイナスがとれる場所を選びましょう。

③ 出入口の場所を決める ※出入口には専用のゲート(別売)が必要です。

地形による電気さくの張り方

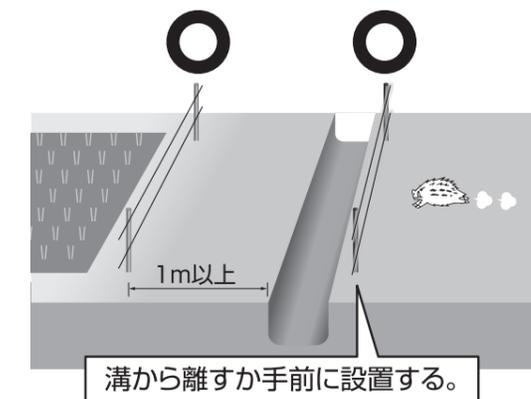
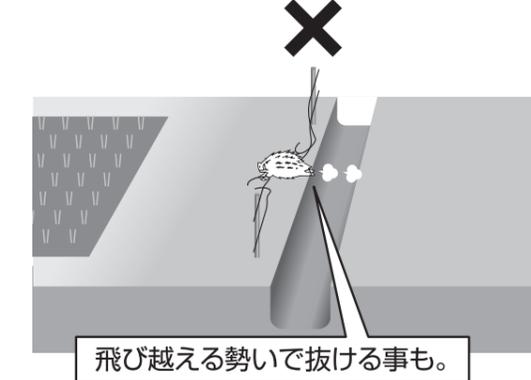
■近くに斜面がある場合

- 獣も人と同様に斜面では勢いをつきます。電気さくは出来るだけ斜面の近くを避け、平らな場所に設置してください。



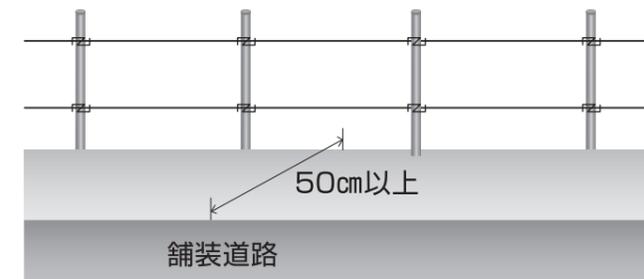
■U字溝など溝がある場合

- U字溝などの溝も注意が必要です。溝から離して設置するか、溝の手前に設置してください。



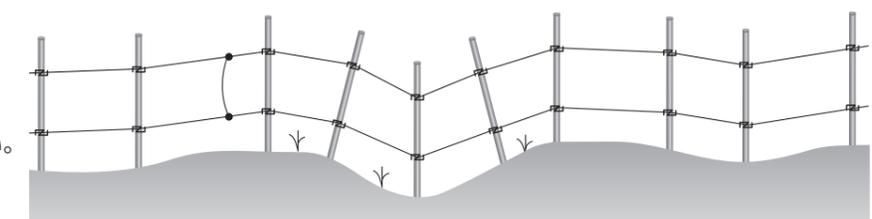
■アスファルトの道路に面してる場合

- コンクリート舗装やアスファルトなどではマイナスが取れにくいので離して設置します。



■地形が凸凹している場合

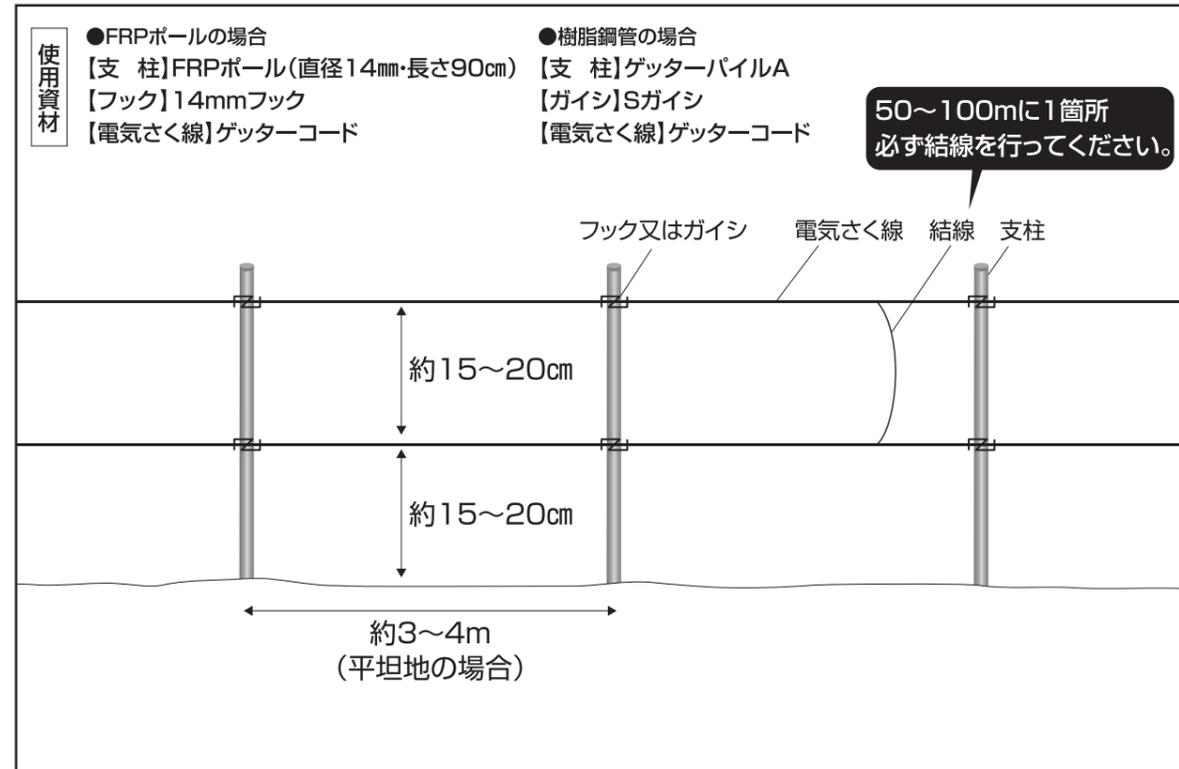
- くぐられないように支柱を設置してください。



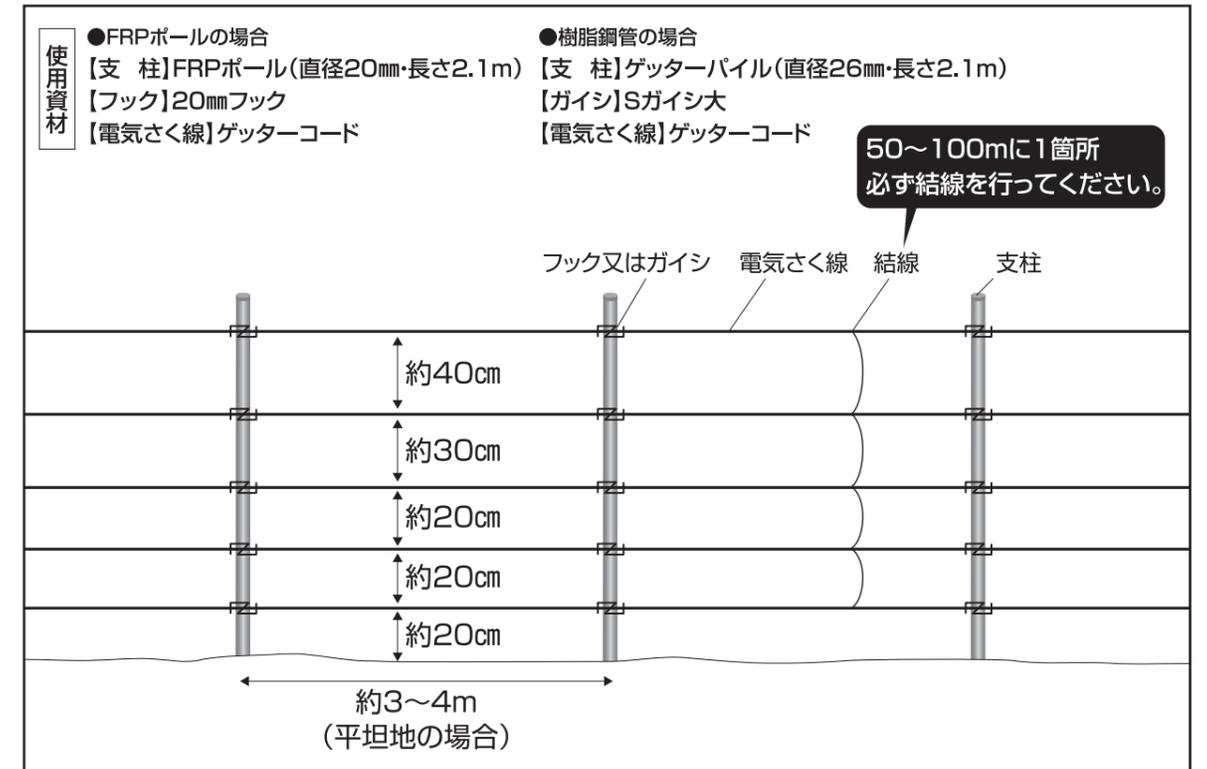
電気さくの設定

対象動物別の張り方と資材

イノシシの場合(2段張)

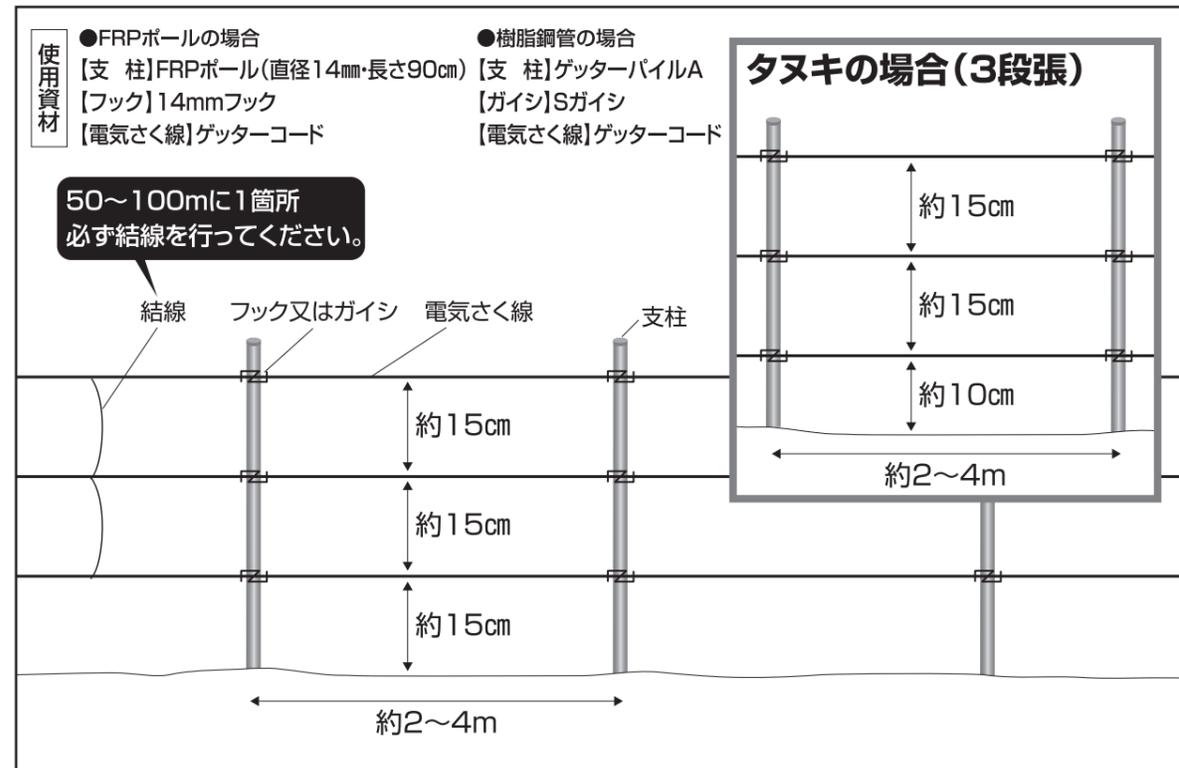


イノシシ・シカの場合(5段張)

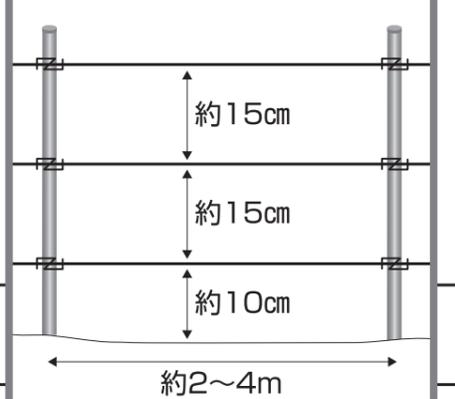


対象動物別の張り方と資材

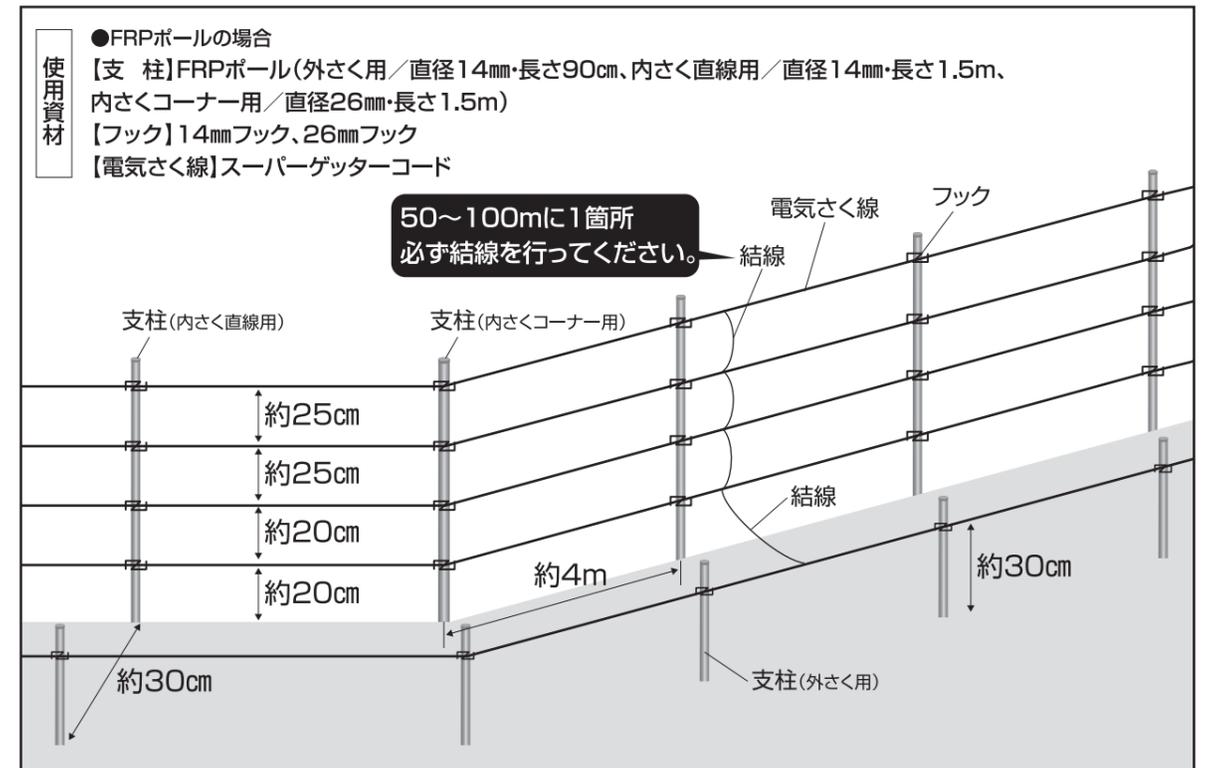
イノシシの場合(3段張)



タヌキの場合(3段張)



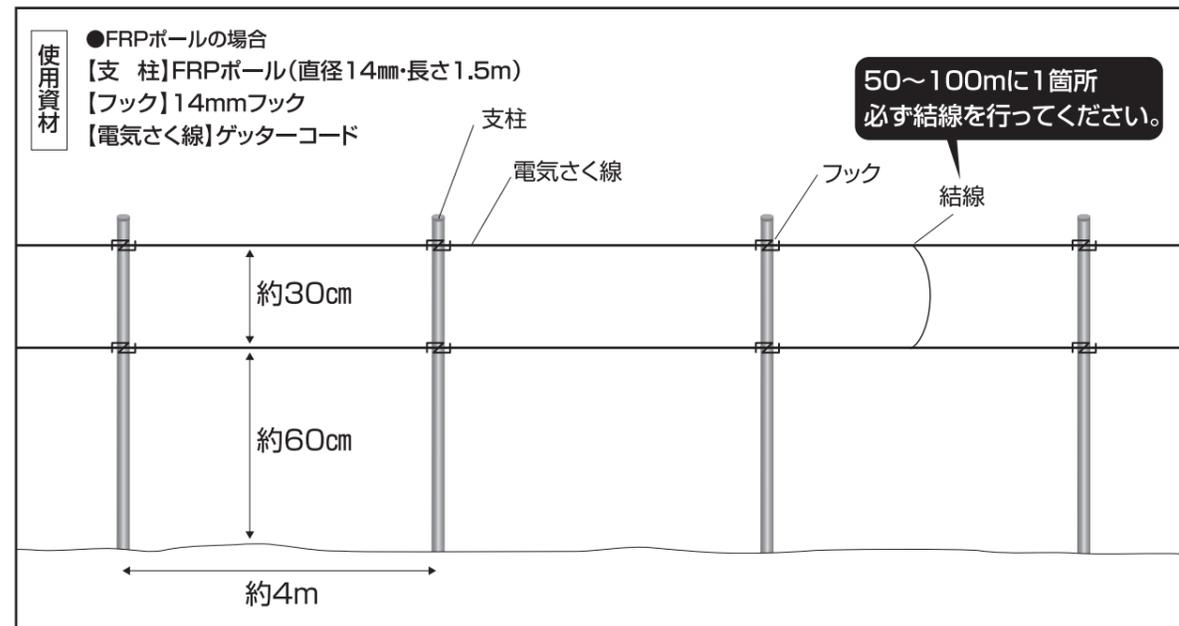
クマの場合(4段張+1段)



電気さくの設定

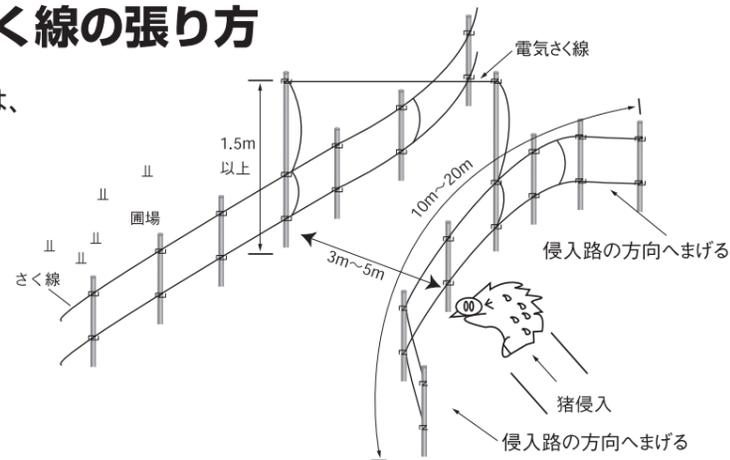
対象動物別の張り方と資材

牛の場合(2段張)



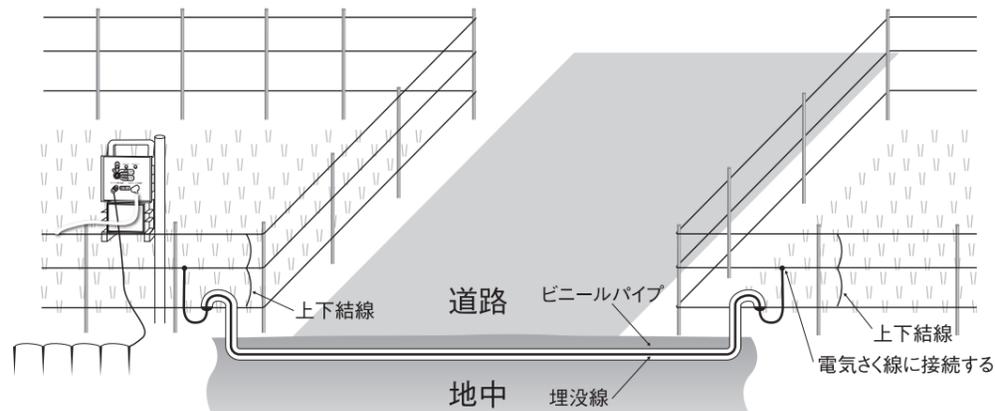
効果的な二重によるさく線の張り方

イノシシのよく侵入すると思われる所は、この図のようになりますと効果があります。



柵と柵をつなげる場合

埋設線でそれぞれの電気さく線を接続します。電気さく線は必ず上下結線を行ってください。



② 下刈り

電気さくの設定

電気さくを設置する部分の地面の障害物(石や金属など)を取り除き、草刈りをしてください。

③ 支柱の立て込み

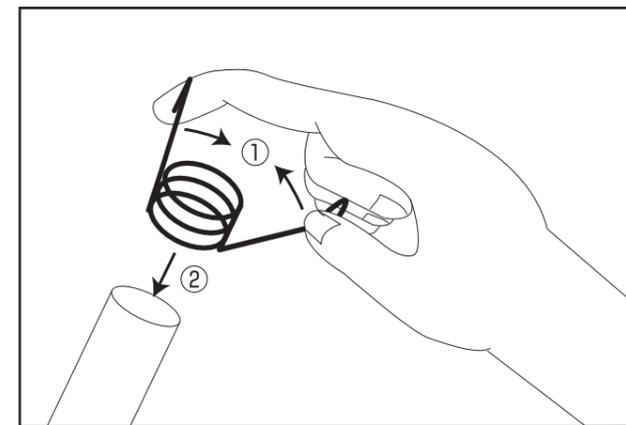
電気さくの設定

約20~30cm地中に打込みます。電気さく線が地面に対して平行になる様に地形に合わせて打ち込んでください。支柱の間隔は、対象動物や地形によって異なります。p.15~p.17を参照ください。

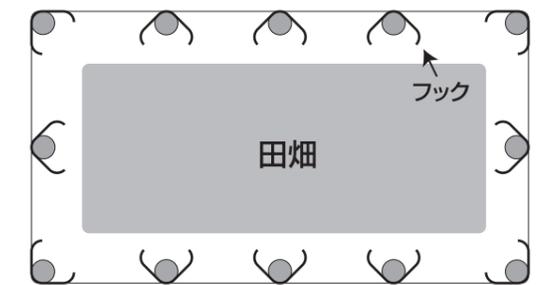
④ フックの取付け

電気さくの設定

①フックの両端をつまみ輪を広げる ②ポールに差し込んで任意のところで手を放すと固定されます。(その他ガイシなどへの取付け方はp.19を参照ください。)



ポイント フックのつまみを内側(田畑)に向けて電気さく線が外側になるように取付ける。

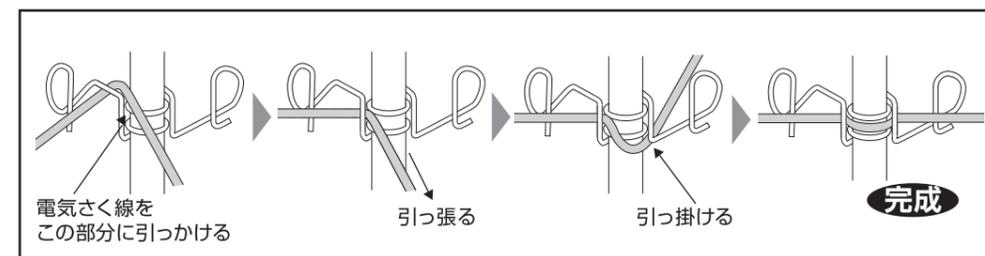


フックの高さを調整する ●フックの取付け位置は、段数や対象動物によって変わります。詳しくはp.15~p.17を参照してください。

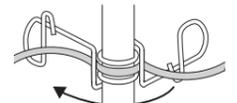
⑤ 電気さく線の取付け

電気さくの設定

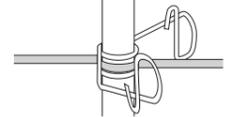
フックには、下記図のように電気さく線を取付けてください。(その他ガイシなどへの取付け方はp.19を参照ください。)



さく線のたるみの調整も簡単に行えます。



つまみをつまんで、ポールに巻きつけるように回します。

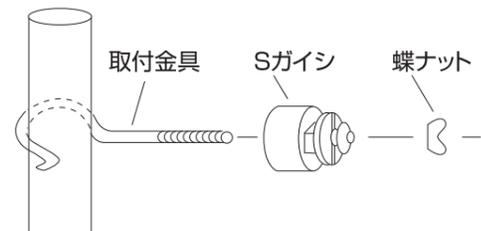


電気さくの設定

フック以外の取付け方

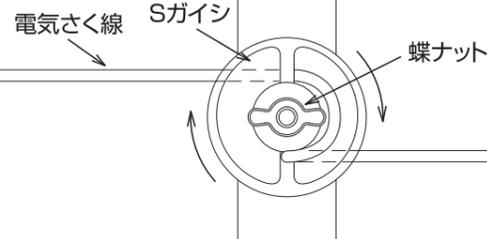
Sガイシの場合

●支柱への取付け方



- ①支柱に取付金具を引掛ける。
 - ②取付金具に蝶ナットでしめ付ける。
- ※取付ける時に溝が縦向きになる様にして
ください。

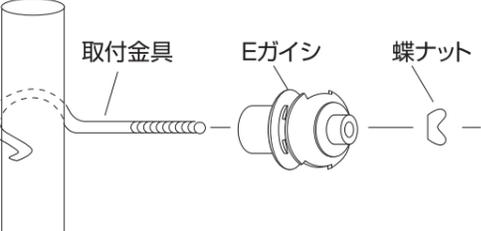
●電気さく線の取付け方



電気さく線がゆるんだ時は、蝶ナットをゆるめて矢印の方向へSガイシ本体を回転させると、電気さく線をピンと張ることができます。

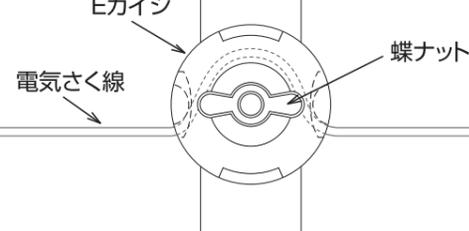
Eガイシの場合

●支柱への取付け方



- ①支柱に取付金具を引掛ける。
- ②取付金具に蝶ナットでしめ付ける。

●電気さく線の取付け方



溝にそって電気さく線をガイシに取付け、ピンとなるように張ります。

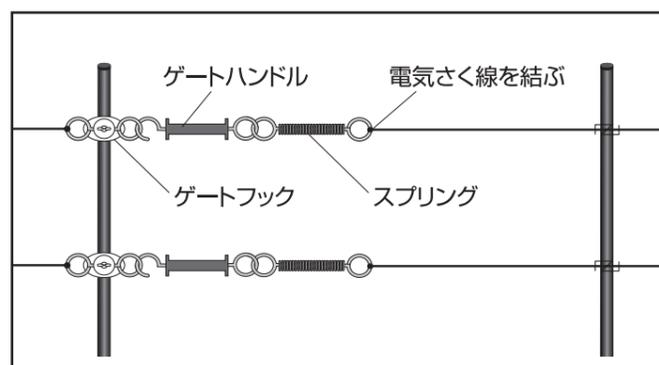
●その他の商品につきましては、ご購入の商品に付属している説明書を参照ください。

⑥ 出入り口の作成(ゲートの取付け)

電気さくの設置

例)ゲート3型の場合

- ①出入り口を作る場所の支柱にゲートフックを取付ける。
- ②開ける部分の電気さく線の端をゲートハンドルに結ぶ。
- ③ゲートハンドルをゲートフックに引っ掛ける。
(この時ゲート部分がたるまないように、スプリングに結ぶさく線の長さを調節してください。)



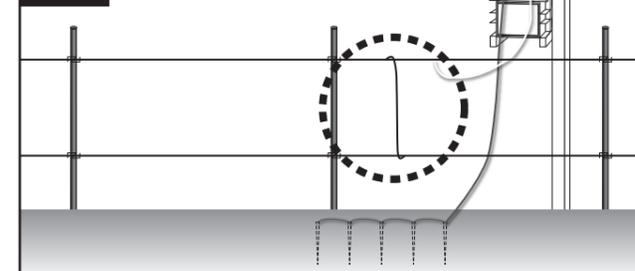
⑦ 上下結線をする

電気さくの設置

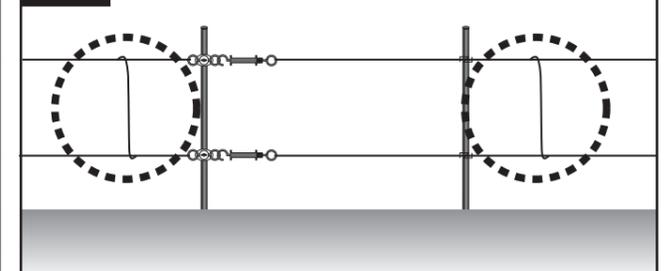
100m毎に上下結線をしましょう。(すべての段をつないでください。)

上下結線は3箇所以上行って下さい(狭い圃場でも3箇所以上は上下結線が必要)
少ないと衝撃電流が正常に流れない事があります

ポイント 1 本器の近くには必ず1箇所結線が必要です。

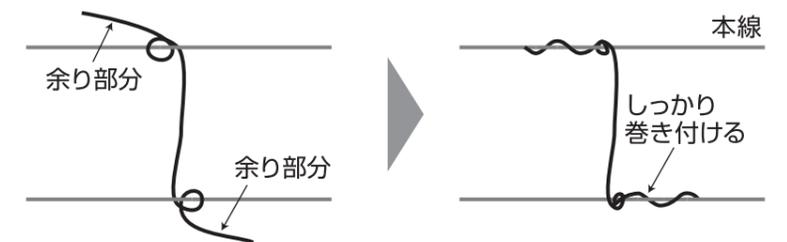


ポイント 2 出入口は左右2箇所に結線をしましょう。



上下結線の方法

上下結線が外れないようにしっかり結び、余り部分を本線に巻き付け線が垂れないようにする



⑧ 本器の設置

p.7を参照ください。

電気さくの設置

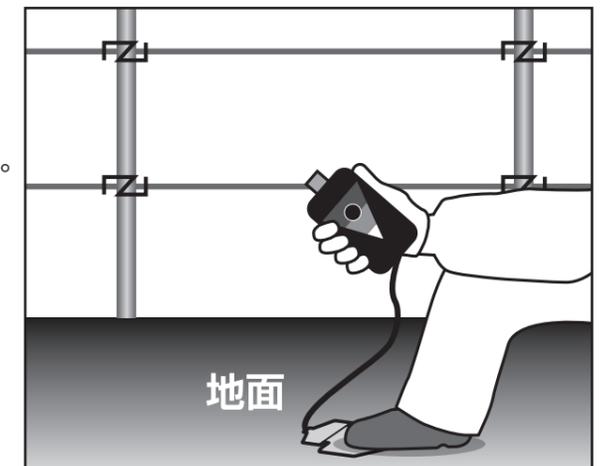
⑨ 出力の確認

電気さくの設置

別売りの検電器(テスター)を使って、下記のように動物が電気さく線に触れるのと同じ状態で電圧を測定します。検電器の良好または全てのランプが点滅。デジタルテスターでは、数値で4.0KV以上表示されれば有効な電圧です。

【動物が触れる状態で測る手順】

- ①検電器のマイナス金具(アース金具)を地面(動物の足が着くあたり)に置いて足で踏む
- ②検電器のフック部分を電気さく線に引っ掛けて計測する



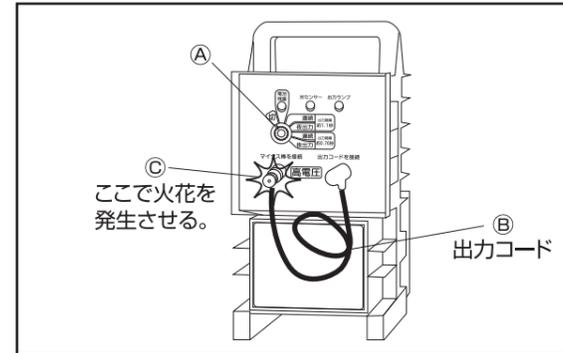
地面

電気さくについて

電流が弱いと思われる場合

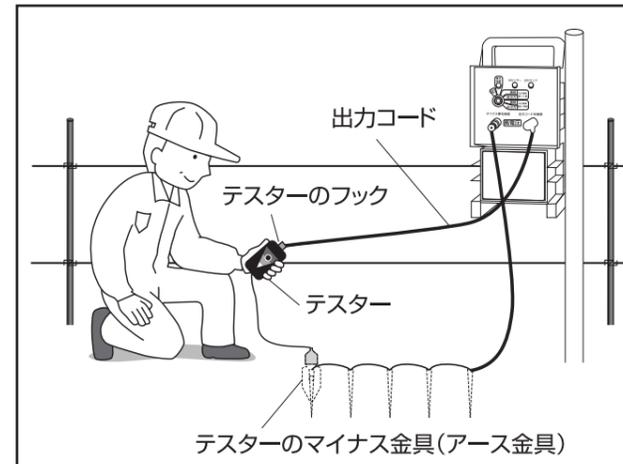
●本器の試験をしてください。

■本器火花テスト



- ①スイッチ(A)を「切」に合わせます。
- ②出力コード(B)の先端を左図の(C)のように本器の高電圧マイナス端子に近づけます。この際、間隔を1~2mm程度離す。
- ③スイッチ(A)を「連続」に合わせます。
- ④約1秒間隔で火花を発生すれば正常です。

■検電器による確認

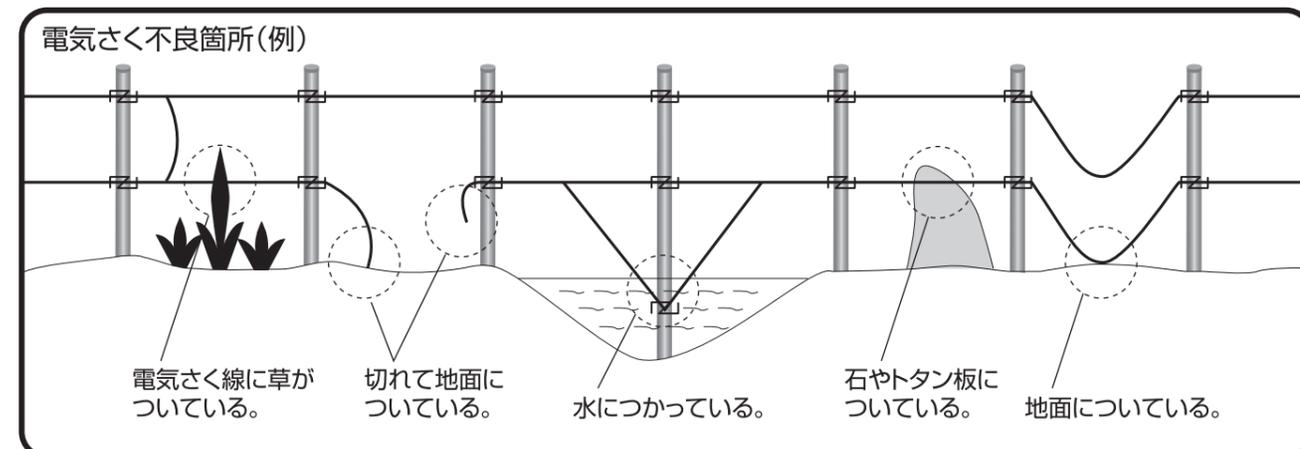


- ①本器のスイッチを切にする。
- ②電気さく線から出力コードを外す。
- ③埋め込まれているマイナス棒につけるようにテストターのマイナス金具(アース金具)を地面に挿す。
- ④テストターのフックと出力コードの先端を接触させる。
- ⑤本器のスイッチを連続にして計測。
- ⑥検電器では良好または全てのランプが点滅。デジタルテストターでは、6.0KV以上表示すれば、本器は正常です。

●電気さく線で漏電していないか確認をしてください。

草木などが触れて漏電していないか下記のような不良箇所がないか特に注意をして点検をし不良箇所があれば解決する。

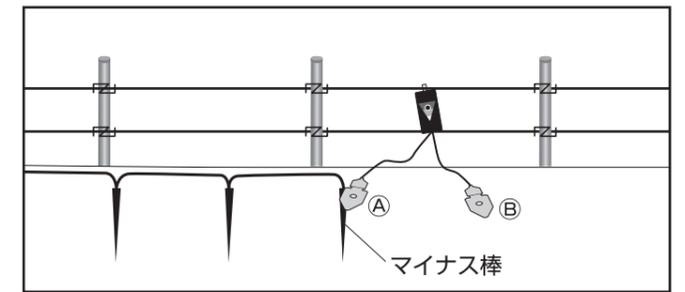
電気さく不良箇所(例)



- 電気さく線に草がついている。
- 切れて地面についている。
- 水につかっている。
- 石やタン板についている。
- 地面についている。

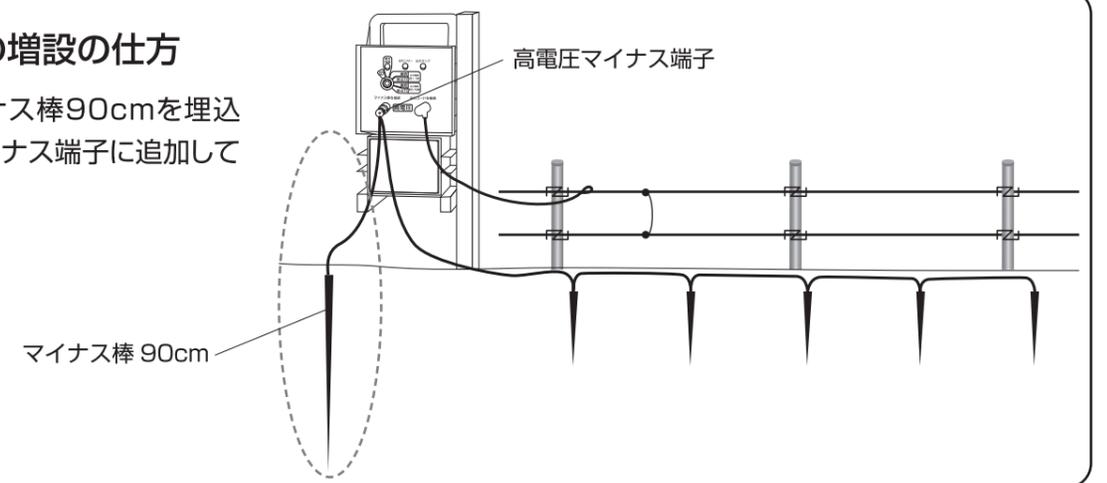
●マイナス不足の確認を行ってください。

検電器(テストター)で(A)と(B)の部分の電圧を測定し、(A)が高く(B)が低い場合はマイナス不足の可能性があります。より湿った地面へマイナス棒を設置し直すか、増設用マイナス棒90cmをご購入いただき取付けてください。



マイナスの増設の仕方

増設用マイナス棒90cmを埋込み高電圧マイナス端子に追加して接続します。

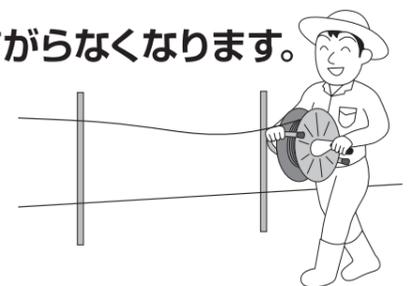


電気さくを使わない時期の管理

通電させていない電気さく線は撤去しましょう。

通電させていない電気さくを学習すると、電気さくを怖がらなくなります。

通電させていない状態の電気さくを学習してしまうと電気さくを獣が安全である事を覚え、次に電気を流しても効果が薄れてしまう場合があります。作物が無い時期は、電気さく線の撤去を行いましょ。撤去が難しい場合は、通電を継続させてください。



ラジオノイズ対策

電気さくを長く使用していると、ラジオ・テレビに雑音が出ることがあります。これは、電気さく線のどこかに下記の問題が生じている可能性があります。原因を明らかにして早急に対処してください。

- 雑草や枝が伸びて、電気さく線と接触している場合
- 端子及び連結箇所の接続が不完全な場合
- 電気さく器本体が故障している場合(原因では1%以下)
- 電気さく線が脱線しているか、断線している場合
- アンテナ線と電気さく線が平行になっている場合(1m以上離す)

日本電気さく協議会からのお願い

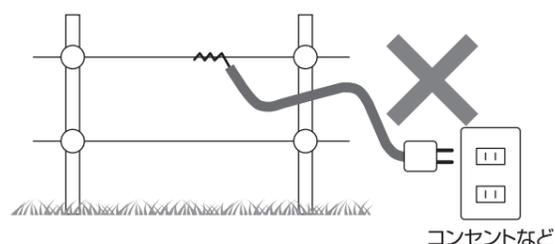


電気さくの安全基準について、日本電気さく協議会では、法律に準じ、自主的に安全基準を設け『電気さくの安全使用』を呼び掛けています。

①

商用電源AC100Vまたは200Vを直接さく線に通電すると非常に危険です。

☆また電気安全法上の法律違反になります。絶対になさらないでください。



②



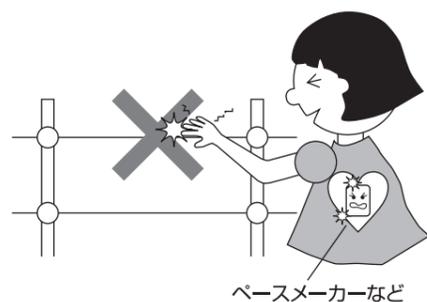
人が容易に立ち入る場所では、必ず「危険表示板」を設置してください。

☆法律上の義務です。

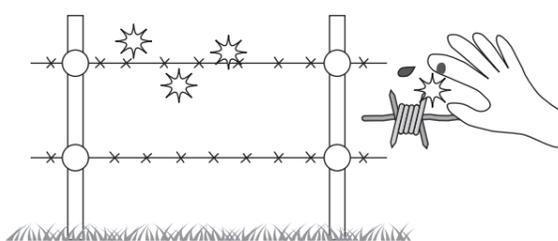
③

ペースメーカーや除細動器を装着されている方は、電気さくに直接触れないようにしてください。

同機器に影響を与える可能性があります。



④

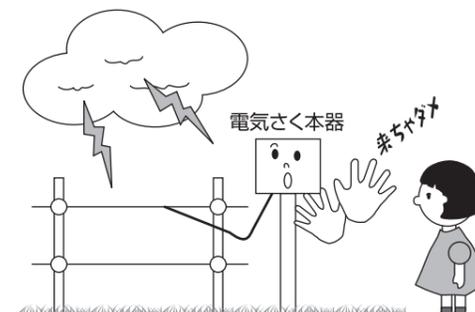


有刺鉄線等「とげ」のある物を電気さくの「さく線」または「アース線」として使用しないでください。

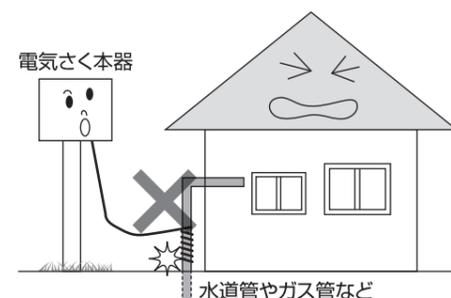
とげが衣服等に引っ掛かり連続して感電する恐れがあります。

⑤

雷発生時は、電気さく用電源装置や、さく線に落雷または周辺に落雷したサージ電圧が流れる可能性があります。危険ですのでご注意ください。



⑥

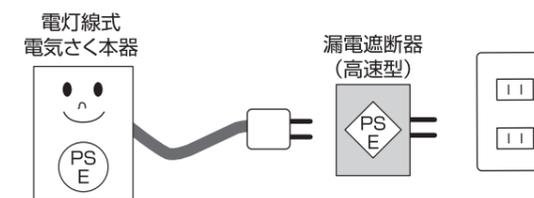


水道管やガス管をアースとして使用しないでください。同管にショック電流が流れたり、穴をあける事があります。

⑦

商用電源AC100Vまたは200Vより電源をとる場合は、元電源に一番近いコンセントに「PSEマーク付漏電遮断器(高速型)」をつける必要があります。

☆法律上の義務です。



☆商用電源AC100Vより電源をとる「電気さく用電源装置」は、PSEマークが必要になります。

※記載した項目は、日本電気さく協議会の自主規制であり、すべてが法律化されているわけではありません。☆マークは法律です。

◎ご不明なことがございましたら「日本電気さく協議会事務局」又は当社までご連絡ください。

